どうする原発　どうなる原発

飯田耕平

今年4月に76歳、後期高齢者の仲間入りをしました。普段は家庭菜園を楽しみながら、4月から11月までは地域のシニア登山愛好会の例会で県内外の里山を中心に登山、冬はスキークラブの会員としてスキーを楽しんでいます。今年の5月から「柏崎刈羽原発の透明性を確保する地域の会」の委員になりました。毎月の会合では国や東電の膨大な資料と説明で勉強不足を痛感しています。ここでは、原発に関わるお話を3点紹介します。

★柏崎に1100人が集まった
4年ぶりの原発反対集会（9月24日）

9月24日、4年ぶりに開かれた「なくそテ原発2023柏崎大集会」は、県内外から集まった1100人で会場は埋まりました。元京都大学の小出裕章さんは「核燃料サイクル計画は破綻している、原発によって生み出された広島原爆百二十万発分の放射性廃棄物の処理が決まっていない」と訴え、佐々木寛さんは「三つの検証」を県でとりまとめることは許されないとする情勢報告を行いました。国道8号線を含むデモ行進には熱気が感じられました。私は、会場の裏方として動いていましたが、久しぶりの大集会に集まった皆さんから反原発、再稼働を許さない大きなエネルギーをいただきました。

★全教の退職教職員が
柏崎・長岡にやってきた

10月10日、全教中部ブロック学習交流集会が長岡市で行われ、私は新潟公立高教組退職者の一員として参加しました。長野、富山、愛知、静岡と新潟から31名の参加でした。一

にいがた
北から南から

日目は長岡駅から柏崎刈羽原発の構内見学に向かいました。その道中のバスの中で、私が柏崎刈羽原発についての概要を説明しました。内容は、①どうして柏崎に原発ができたのか②柏崎原発は「豆腐の上の原発」、③世界一の集中立地、事故時の危険性も世界一④柏崎原発の資産価値は四兆円を超える？⑤原発は地域の発展に寄与したか？⑥柏崎の人口減少は異常に高い⑦柏崎は核のゴミの最終貯蔵地？⑧最近の原発事故やトラブル⑨国・東電の再稼働の動き⑩三つの原発検証委員会と県の動向⑪再稼働を認めない市民団体の動向です。最後に、「新潟は、県議会・柏崎市議会の多数派を占める原発推進派と再稼働を許さない県民・市民運動双方にとって、柏崎刈羽原発の再稼働をめぐる動向は正念場を迎えています。このたたかいは、県内だけでなく日本の政権、財界との対決でもあります。核燃料サイクルの確立されていない『トイレなきマンション』の原発に未来はありません。原発ＮＯの声を広げに広げましょう。」と締めくくりました。

★東電の原発「安全」アピールと構内見学から見えたものは

東電ＰＲ館に入る前に事前に申請していた書類と付け合わせる手続きを受け、免許証と引き換えに構内見学に必要な証明カードを渡されました。当日免許証など証明書がない者は、テロ対策で一層強化されたチェック体制のため構内に入ることができませんでした。東電広報担当者による説明会は、まさに立て板に水のような流暢な説明を受けました。福島原発事故後の「新規制基準」に基づく安全性への取り組みが中心でしたが、なぜか心に残っていません。その後、ＰＲ館の原子炉模型を見学し、原発敷地内を俯瞰しました。原発敷地の陸側は、二重の電気柵、有刺鉄線で囲まれています。構内入り口で警備員がバスに乗り込み先ほど渡された証明カードの写真と本人の顔認証のチェックを受け、ようやくバスは構内に入ることができます。バスは、

原子炉建屋、貯水池、非常電源車、放水車等を車内から見学し、最後に海側にある15ｍの防潮堤を見学しました。見学をした参加者は説明と見学をどのように受け止めたのか、アンケートで少し紹介します。

○なぜ原発という「面倒な施設」を市議会で受け入れ決議したのかの理由を話してくれたが、「面倒な施設」と言う言葉はやはり地元の人たちにとっての気持ちなのではないか。柏崎・刈羽併せて８４０００人ぐらいの人口で、約５５００人の働く場になってはいるが、戦争になったら目標にされる原発と考えると、ずっと住み続けたいという気持ちはなくなるだろう。

○プールに水を蓄え、発電用の車、給水用の車、そして防潮堤とあれだけ準備しなくてはいけない原発とは何だろうと思った。

○〈福島原発事故で〉莫大な補償問題が発生したが、国が肩代わり（国民への負担に転化）したことをどう考えているのか聞きたかった。

○多重防護を考えているようですが、肝心の核のゴミ処理が抜けています。

皆さんの指摘は鋭いですね。

★大野さんの原発学習会で学んだこと

私たちを乗せたバスは、長岡市の奥座敷蓬平温泉に向い、到着後すぐに大野隆一郎さんの「原発学習会」がおこなわれた。大野さんは、最初に三つの角度①核のゴミ問題②原発事故の異質③原発はテロの標的になると原発の危険性を指摘し、汚染水とトリチウムの問題、核のゴミと地層処分の問題について話をされました。柏崎原発が「豆腐の上の原発」といわれる特有の地質、地盤問題にも言及されました。以下アンケートより。

○静岡県の浜岡原発も活断層の網の目のような場所に建っている。東海地震の発生も予想される中で大きな不安がある。ここにある柏崎原発も同じような状況にあることを深く気付かされた。

○絶対安心の神話が崩れた後の大野さんの講話で、地震、津波に軟弱な地盤などで、豆腐

の上の原発だと思った。
○原発のあらゆる問題を丁寧にわかりやすく説明されたことに感心した。鉄塔倒壊をはじめ電源喪失が致命的であることを学びました。水素爆発が福島原発の炉の崩壊につながったことを学びました。ジルコニウムが水素爆発の原因なのでもう少し話していただければよかったと思う。
○これからの子供たちに、負の遺産を残すのが心苦しい。核のゴミの処理場は、日本にはどこにもない。

★映画「原発をとめた裁判長」を見て

11月12日、柏崎市文化会館アルフォーレで「再稼働させない柏崎刈羽の会」主催の「原発をとめた裁判長　そして原発をとめた農家たち」を見る機会がありました。この映画は2014年に、「よって、原発の運転は許されない」と原発裁判史上画期的な判決・関西電力大飯原発の運転停止命令を下した樋口英明さんを中心に、それを支える弁護士や農家の営みを記録した映画で、一見の価値ありです。

映像は、原発は日本で頻発する地震に耐えられない構造であるとする「樋口理論」をとてもシンプルでわかりやすく伝えていました。それを支える原発裁判弁護士河合弘之さんや再生可能エネルギー普及に取り組む飯田哲也さんが登場し、福島の被災地で一度は生業を離れた農業者・近藤恵さんが、農地に太陽光パネルを設置し作物を栽培するソーラーシェアリングに農業復活の道を見出す農家の戦いの物語でもあります。

今日は、柏崎刈羽原発の裁判やこれからの反原発、再稼働を許さないたたかいの大きなエネルギーになったと感じた一日でした。

（いいだ　こうへい・柏崎市）